NIE実践報告

1．タイトル：新聞から国際貢献を考える

2．学校名

神奈川県逗子市立逗子小学校

3．実践者名（代表者名）

鈴木　雅史

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　35人

6．単元（本時の学習課題）名

世界の人々とともに生きる

7．目標(狙い)

国際社会の中で先進国である日本が果たすべき役割を新聞から考え、自分なりに貢献しようとする意欲を持ち実践できる。

8．評価の視点

新聞記事から我が国の国際交流や国際協力の様子、国際連合のはたらきに関心を持ち、意欲的に追求できる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間を通じ、朝の会や総合の時間などでニュース紹介や新聞を活用する学習をしてきた。本単元は、社会科「世界の人々と生きる」9時間扱いである。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞から世界の事実を認識する。
②困難な問題を危機ではなく、世界に変えるためのチャンスとしてとらえる。
③国連のはたらきを調べる意欲につなげる。
④様々な問題に対し、国連はどんなことをしているのかを調べ考える。
⑤⑥国連と日本人の関わりを考える。
⑦⑧人的援助の難しさに気づく。
⑨世界の人々の発展のために、自分なりにできることを考える。

（留意点）
・新聞記事の「ひと」や「顔」などの欄に注目させ、記事を追わせるようにする。
・新聞記事の「国際面」に国連の記事がないか注目させる。
・事前にインターネットで記事を検索することも一つの手段である。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞活用学習を2年間継続してきただけに記事探しはスムーズに行われた。国際面は紛争関係の記事ばかりで児童も驚いていた。また、日本人の感覚と紛争地域に住む人々の感覚の違いに矛盾を感じていた。しかし、親善大使、国連で働く人、民間ボランティアの活躍に関心を持ち自分達にもできることを真剣に考えていた。

12．成果と課題

「ひと」や「顔」などの欄は児童にとっても読みやすく、国際ボランティアの活躍記事もよく取り上げられていたので取り組みやすかった。また、国際司法裁判所の所長に小和田氏が就任したので記事も多かった。
国際貢献をどう自分事として考えさせるかは難しかった。それぞれの活躍を知ることはできても、自分だったら何ができるかを考え、それを実行するまでにはさらに深い学習が必要だったと思う。
今回学習の途中、インターネットで記事の一覧を調べさせた。そして、記事に戻ることを実践してみた。児童も喜んで記事を探すことができ、「こんな検索の仕方もあったんだ」という声が多数あった。